

## 地域ケア推進会議 報告書

## 【医療・介護連携に関する場合のみ】

提出日	2023年12月7日
作成 高齢者支援センター	鶴川第1
作成者	高野 由美子

1.開催日時	2023年11月24日	(金)	19:00	～	21:00
2.会場	オンライン				
3.主催センター	鶴2	・	鶴1	・	
4.参加人数	87人				
5.参加者内訳	<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者支援センター 9人		<input checked="" type="checkbox"/> 医療と介護の連携支援センター 3人		
	<input checked="" type="checkbox"/> 医療関係者 27人 (うち、医師 3人)		<input checked="" type="checkbox"/> 介護事業者 39人		
	<input type="checkbox"/> 民生委員 人	<input type="checkbox"/> 老人会 人	<input type="checkbox"/> 住民 人		
	<input type="checkbox"/> 町内会自治会 人	<input type="checkbox"/> 警察 人	<input checked="" type="checkbox"/> 行政 4人		
	<input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 鶴川地区社協2人、社協1人、居住支援法人1人、医薬卸1人 )				
6.開催テーマ	「大災害発生！オール鶴川で乗り切るために私たちにできることは？」				
7.地域課題	<p>(1) 課題設定の背景</p> <p>鶴川圏域の地区別人口動態から、圏域の人口推移について確認すると、高齢者数、高齢化率共に上昇傾向にある。独居や社会的孤立により、医療や介護保険でのサービスを利用する事により生活が行えている地域住民が多く存在している。</p> <p>(2) 検討した地域課題</p> <p>鶴川地区には災害時の医療拠点が少なく、災害発生時の避難宿泊施設も13か所である。その中で、災害発生時に医療や介護サービスを各事業所は速やかに提供できる体制整備が必要とされるが、各事業所とも体制整備に繋がるBCP策定に現状苦慮している。各事業所においてBCP策定と共に、他事業所との連携体制の構築を進める事により、災害発生時でも市民へ早期のサービス再開を図る為の体制整備が求められる。</p>				
8.会議の内容	<p>「大災害発生！オール鶴川で乗り切るために今、私たちができることは？」をテーマに圏域合同地域ケア推進会議を開催。①経緯説明②各医療・介護事業所のBCPの特徴と災害時に求められること・講義「災害時医療救護活動(医師会の対応)」③薬局のBCP、緊急時の対応④介護事業所のBCP、災害時連絡名簿検討部会からの提案⑤グループディスカッション:テーマ「大災害時、私たちができることは？」⑥感想および総評を実施。</p> <p>医療・薬局・介護の各分野より、災害時の取り組みの現状について講話を聞き、BCP策定の現状、医療と介護のそれぞれの活動や体制について等、普段知る機会が少ない多職種の情報共有することができた。グループディスカッションでは現状を踏まえて自分たちに出来る事をそれぞれの立場から検討するとともに、BCP策定後の運用についても意見交換を行った。グループディスカッションは多職種で話せるようグループ分けし、職種による様々な視点をお互いが知る機会となった。この機会をきっかけに、鶴川圏域で地域住民や医療・介護と相互に連携して取り組む必要性を感じた等の意見があった。</p>				
9.課題に対する対応策・今後の地域での展開	<p>次回会議にて、グループディスカッションのまとめと開催後のアンケート結果を分析共有し、今後の地域での展開を検討する。また、今回の会議内容を地域の事業所等にも知ってもらうため、「レッツケア会議」を作成し広報していく。</p>				
10.その他					

医療と介護の連携支援センター 確認日

12月 6日